

# 北海道ブロック初の 親子ものづくり教室を開催

IMF-JC北海道ブロック事務局長 岩本 尚典



北海道ブロックは、2009年10月4日、初めての試みとなる「親子ものづくり教室」を「連合北海道金属機械部門連絡会」とタイアップして、北海道室蘭市において開催しました。

この日は、時折雨の降る肌寒い中での開催となりましたが、札幌市、石狩市、苫小牧市、室蘭市など道内各地より加盟産別・組合から親子46名の参加を頂き、鉄の街「室蘭」の街おこしグッズ「ボルタ」人形づくりと創業100周年を迎えた新日本製鐵(株)室蘭製鐵所の北海製鉄(株)第2高炉と棒鋼工場の見学を実施しました。

それでは、北海道ブロック「親子ものづくり教室」の開催内容について紹介します。



真剣にボルタ作成をする子供たち

## 開催するにあたっての 幾つかのこだわり

振り返れば20年もの間、自動車造りに携わってきた私にとって、もの

づくりは自分が夢中になれたことと

して、人との繋がりがもてたことと

して感慨深いものがあり、北海道ブ

ロックの事務局を担当して1年、「親

子ものづくり教室」を実施するのに

幾つかのこだわりを持ちました。

まずは、北海道として独自性のある「題材」を探し、第一に子供達が興味を持つてくれる制作物。ものづくりの機会を与えて終わってしまうのではなく、また、何か造ってみたりではなく、また、何か造ってみたりとは思わせない。少々苦勞して個性が出る「題材」が良いな、などなど勝手に思いは膨れていました。

しかし、思いはあっても、理想的な「題材」は見つからずじまいでしたが、北海道ブロック事務局の打合せで室蘭市に向いたとき、街づくり団体「てつのまちぶろじえくと」の

話を伺い思いが固まりました。

## てつの町プロジェクトで 生まれた『ボルタ』

昔から、室蘭市は「鉄の街」として知られ、そして栄えてきました。

鉄は重厚・長大な産業として室蘭を支えてきたわけですが、鉄が街に寄与するのはそれだけでなく「鉄」を愛でること、触れること、加工すること、あるいはそれを食べることもなど、もつと鉄と人との身近な関係があるはずと、鉄の街を盛り上げようとする人達が「てつのまちぶろじえくと」を立ち上げ、様々な取り組みをしていることが分かりました。その中で生まれたボルトとナット、ワッシャーなどをハンダ付けして出来た人形が愛称『ボルタ』として販売

# 「ものづくり大国」日本 ～ものづくりの魅力を伝えるために～



工房に並ぶボルタ

され、人気を集めていることを知りました。(2005年12月から販売開始)

ボルタのキヤラクターは、1ヶ月5種類、最終的に100種類を超えるポーズを制作しており、今では全国からの問い合わせにより通信販売も行なうほどの人気ぶりです。今回、これらが手作りキットとなり、ボルタファンの方ももちろん、旅の記念や社会学習、溶接等の経験者による腕自慢など、様々な製作体験が出来ることを知り、新日鐵室蘭労組の組合長でもある北海道プロックの菅原議長が薦めもあって、「ボルタ」作成と新日本製鐵(株)室蘭製鐵所の工場見学の開催が実現しました。

参加者は、室蘭市近郊ということもあり、自家用車での参加が多く、受け付け場所である室蘭市民会館に集合をして徒歩で3分ほどの工房へ移動して頂きました。

ボルタ工房の中は、横長10畳ほどの広さで製作用の長机とイスが並んでおり、工具はハンダごて・ニッパ・ラジオペンチを主に使用し、材料のボルトを曲げたりナットを溶接したりと4名のスタッフにより、子供たちには道具の使い方から手順・ポイントを丁寧に教え込んで頂きながら一人一体を完成させます。(父兄の方には直接手を出さずに、補助としての付き添いをして頂きました。)

子供達も最初は初めて使う道具や材料などに戸惑いもあったみたいですが、徐々に作品の形が変わっていくのと同時に表情も変わっていききました。今回は、「逆立ちボルタ」を子供たちみんなが約30分の時間内で造り上げることが出来ました。



工場見学での記念撮影



工場案内の風景

作成した逆立ちボルタ



ボルタのキ

され、人気を集めていることを知りました。(2005年12月から販売開始)

## 工房で46名が ボルタ人形づくりに挑戦

開催内容は、参加者46名を2班に分けて時間差で「ボルタ」作成と工場見学を行い時間としては全体で一つの班が3時間で終了するスケジュールとしました。

## ボルタ作成の後、みんな で新日鐵室蘭工場を見学

ボルタの作成を終えてから、北海製鐵(株)第2高炉と室蘭製鐵所棒鋼工場を見学、鉄鉱石から銑鉄(1300度の溶鋼)が造られ、製品が出来上がるまでの一連の流れを親子で見学し日程を終了しました。

今回は日程・場所の関係もあり、道内全ての構成産別・組合の参加は実現出来ませんでした。今回は、各産別代表幹事とも連携し広く展開をはかり、純粋な感性を持つ子供たちに少しでも刺激を与えられる「ものづくり教室」を企画開催していこうと思います。

最後になりますが、開催に当たりアドバイスや準備をいただきました新日鐵室蘭労働組合の執行部の皆さん本当にありがとうございました。

同じポーズのボルタでもそれぞれに個性があり、自分の手で造った味わい深い作品を誇らしげに「勉強机に飾るんだ」と言っている姿が印象的でした。